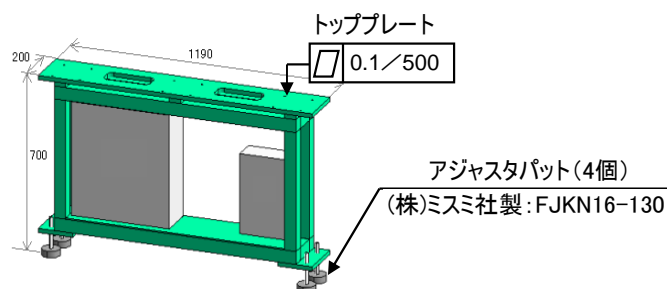


## 設置方法

### Step1

基準となる1台目の脚を設置する

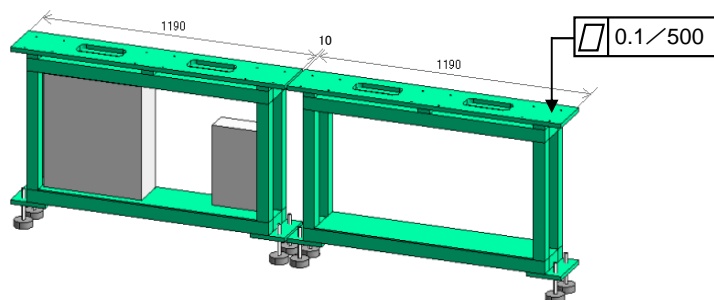
- ・トッププレートの高さと平面度をアジャスタパットで調整する。



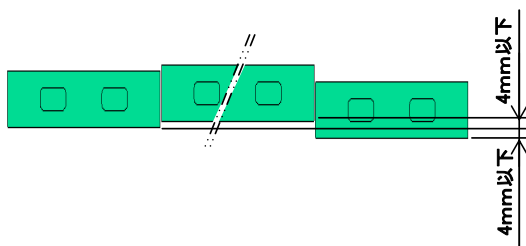
### Step2

2台目の脚を設置する

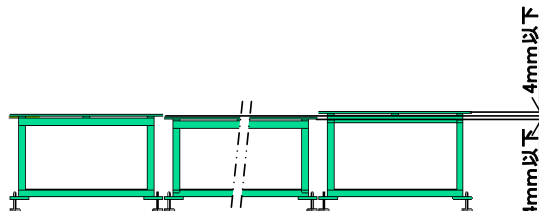
- ・トッププレートの高さと平面度をアジャスタパットで調整する。
- ・トッププレートの横位置、高さ位置、奥行位置は、1台目に対して±4mm範囲で合わせ、角度もおよそ合わせる。



〈奥行方向〉



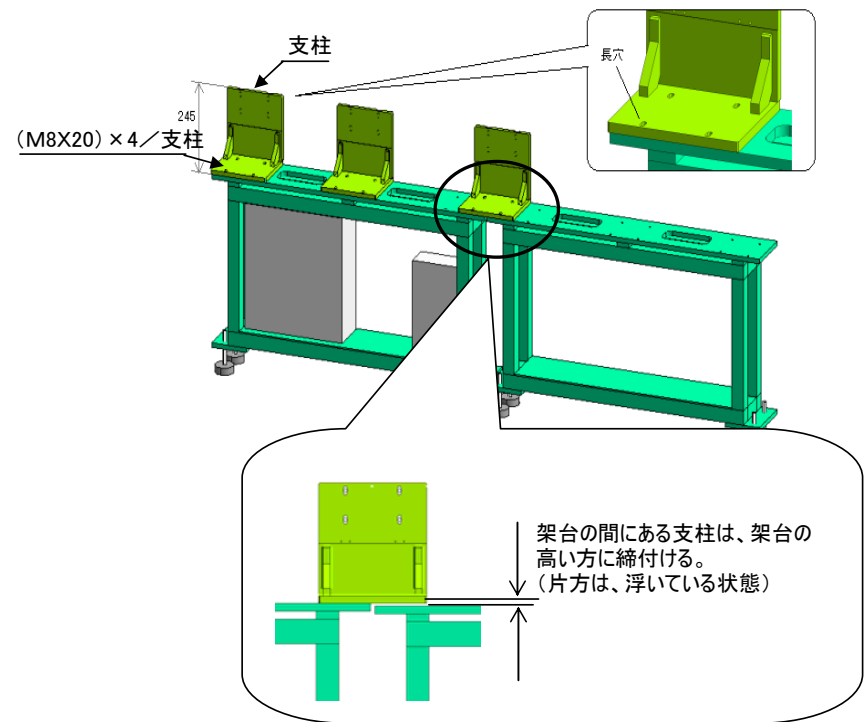
〈高さ方向〉



Step3

1台目の支柱を仮固定する

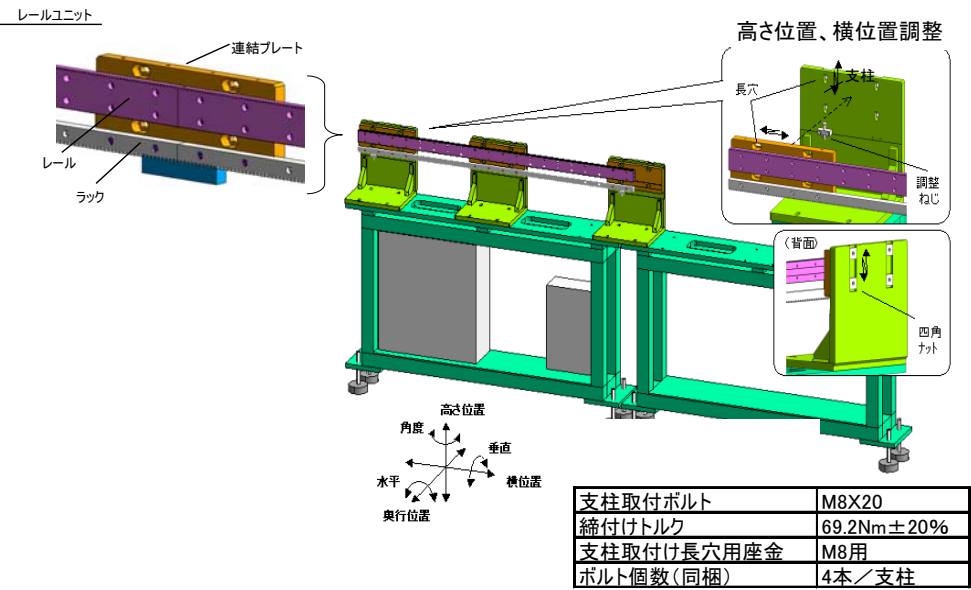
・奥行位置・横位置・角度を仮に出し、ボルト(M8X20)で仮締めする。



Step4

1台目のレールユニットを支柱に仮固定し、レールに倣い1台目支柱の奥行位置を調整し、固定する。

・高さ位置、奥行位置、角度を調整し、1台目すべての支柱を固定する。



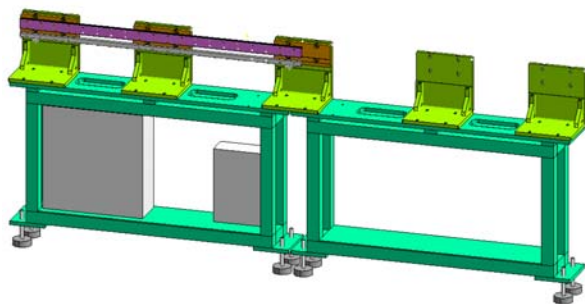
Step5

1台目レールユニットの横位置を調整し、固定する。

(Step4の図参照)

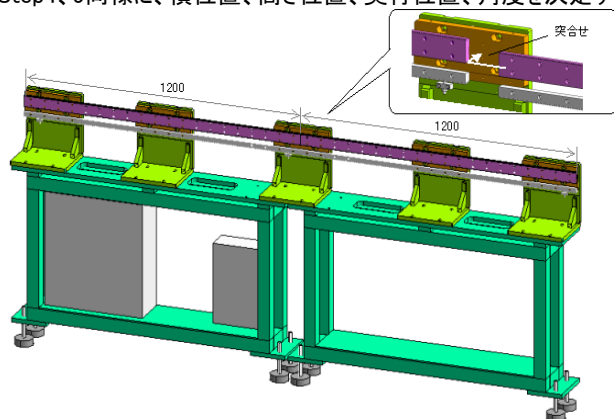
### Step6

- 2台目の支柱を仮設置する。
- ・奥行位置、角度を仮に出す。



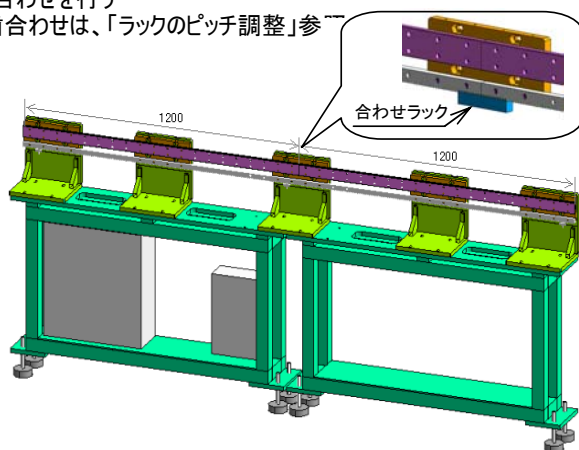
### Step7

- 2台目のレールユニットを1台目の支柱に仮固定し、それに倣うようにレール基準で2台目の支柱を仮固定する。
- ・Step4、5同様に、横位置、高さ位置、奥行位置、角度を決定する。

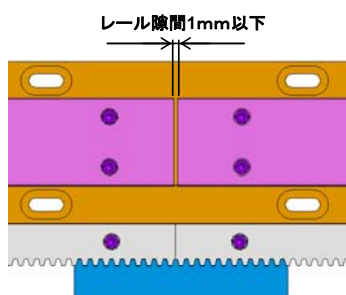


### Step8

- ラックの歯合わせを行う
- ・ラックの歯合わせは、「ラックのピッチ調整」参照

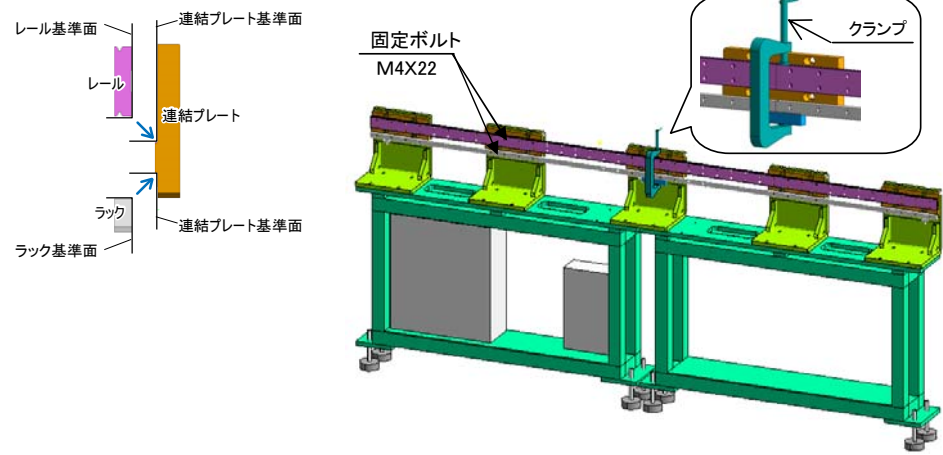


- ・ラックの歯合わせの際、レール隙間は1mm以下であること。



Step9

レール・ラックの取付け

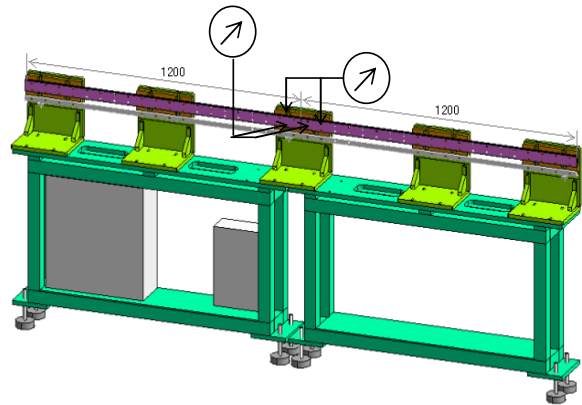


・連結プレート基準面にレールおよびラック基準面を合わせて固定する。  
このとき、レールのつなぎ部に段差が生じないよう、小型のクランプなどで連結プレート基準面とレールおよびラック基準面を、クランプ力2300N以上で密着させ、固定。  
なお、クランプ時は、レールの傷付け防止を行う。

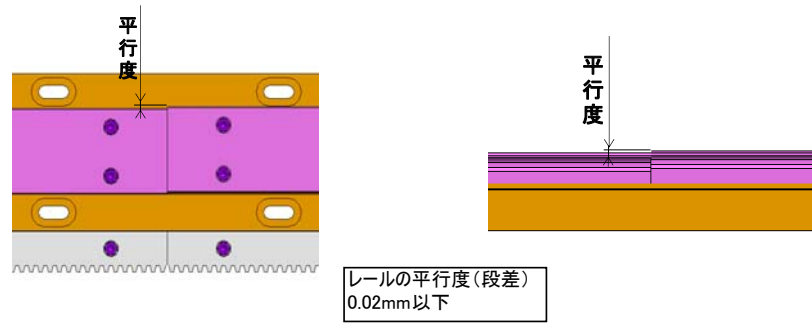
支柱取付ボルト	M4 × 22
締付けトルク	2.9N・m ± 20%
ボルト個数(同梱)	6本/連結プレート

Step10

2台目のレールを設置し、支柱も固定する  
・レールの取付精度確認



・2台目レールを基準に2台目の支柱を仮固定する。  
・レール間の平行度(段差)が0.02mm以内に入っているか確認。  
・0.02mm以内でない場合、取付面にゴミ・バリ等が混入していないか確認し、再組付・平行度の再確認。

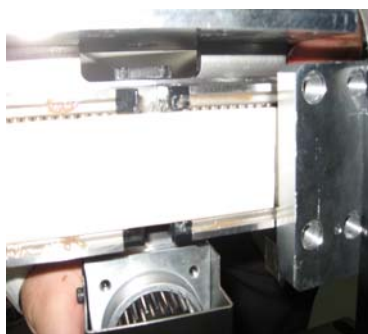


### Step11

レールにL軸を設置する。  
L軸には、スライダの球落下防止用の樹脂レールが付属。

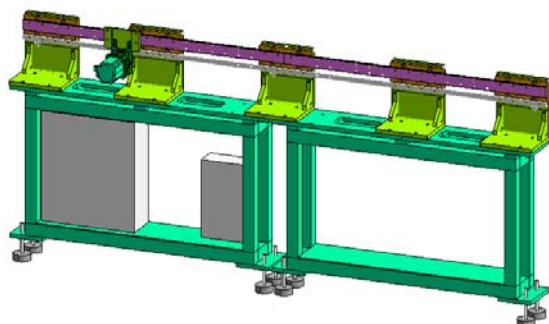


L軸のスライダの球が飛出さないよう、樹脂レールを取付けた状態でL軸をレールに挿入。



### Step12

L軸を設置しバックラッシ調整を行う

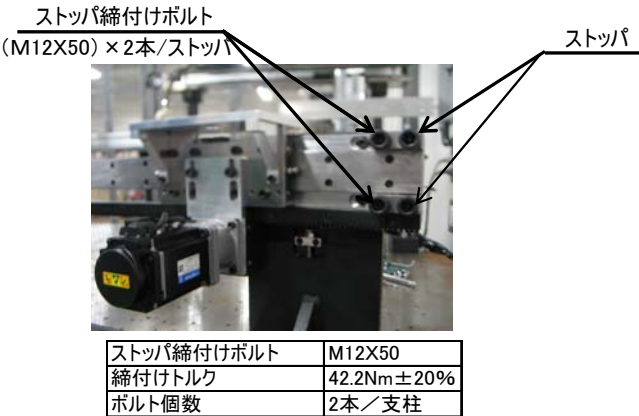


- ・バックラッシ調整は、「バックラッシ調整」を参照。
- ・バックラッシ調整後、L軸の摺動抵抗が規格内(29.4N～47.1N)であるか確認。
- 摺動抵抗が規格外の場合は、調整ねじで摺動抵抗が規格内に入るように再調整。

Step13

ストッパ固定

- ・両サイドの連結プレートに片側2個のストッパを締付ける。



Step14

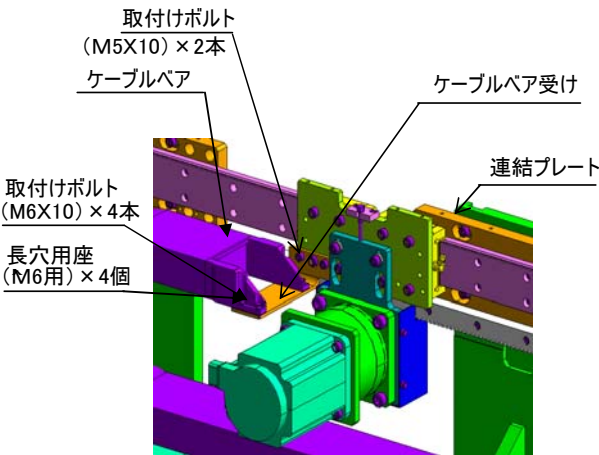
ケーブルバヤの設置

- ・ケーブルバヤ受けをレールユニットの連結プレートに取付け、固定する。

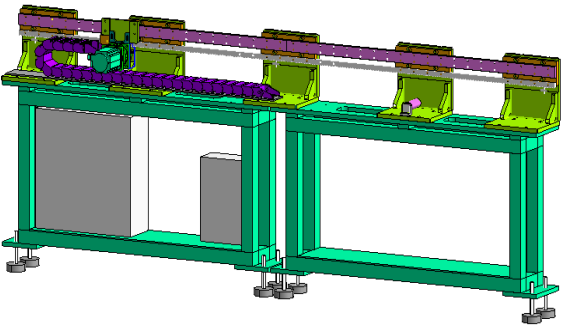
ケーブルバヤ取付ボルト	M5X10
締付けトルク	8.8Nm±20%
ボルト個数	2本

- ・ケーブルバヤをケーブルバヤ受けにボルトおよび長穴用座金(M6用)取付け、固定する。

	ケーブルバヤ受け	長穴用座金
取付ボルト	M6X10	M6
締付けトルク	5.3Nm±20%	
個数	ボルト4本	4個



《最終姿》



【ケーブルバヤの取扱い注意】

ケーブル・エア配管の挿入量は、ケーブルバヤ内容積の50%以下にし、配線・配管切れがないよう考慮すること  
標準で使用するケーブルバヤ(TKP0580W50R75)の内容容量は、1900mm<sup>2</sup>。